



女神アイシスから（永遠の生命）を授かる、
古代エジプト女王ネファタリ

カパー
ロマン

JCDA
♀
マークの故郷探訪



横井 弘明

社団法人日本銅センター
専務理事

昨年七月、日本銅センターで仕事をすることになり、センターの出版物を手にとり取って見て、まず最初に目に飛び込んできたのが、銅センターマーク、つまり、「」とその丸い輪の中にCDAと横書きの「」マーク。マークの方は、言わずもがなだが、「」は、日本工業規格でも定められている、いわゆる「雌記号」である。この「雌記号」と我々の「銅」は、どういう関係にあるのか？

今は亡き大先輩、仲田進さんが書かれた「銅のおはなし」の裏表紙には、古代エジプト人は、生命を象徴する象形文字として「」をのせた。を用いました。これをAnchor記号と呼びます。古代ローマ人は、占星術で銅を金星ビトゥスになぞらえアンクーマークを与えました。今日では、銅のシンボルマークとして「」をのせた。記号を用いています。という解説がなされています。ところで、このマークは銅のシンボルマークとして世界的に使われています。ロンドン金属取引所、米国のカッパークラブ、第二次世界大戦の兵器生産に必要な銅の供給を確保することを目的に1844年に設立された団体です。今は銅の安定供給を通じて世界平和に貢献する団体として運営されていますが、その活動のひとしに、銅の業界で功績のあった人を毎年一人あるいは一人選んでアンクーマークを授与することです。ちなみに、2002年の受賞者は、LMEの会長を務めたハグリ卿でした。そういう意味で、世界的な文獻を探してみますと、世界のトップ伸銅メーカーであるドイツのKMEの人たちが、について、以下のような興味深いレポートをインターネットで紹介しています。

古代ローマ時代、銅の主要生産地はキプロス（Cyprus）島で、銅はCuprumと呼ばれていた。これがCOPPERの原語である。銅は別途、アンクとも呼ばれていた。それは、古代エジプトのアンク、つまり「」が永遠不滅の生命を表わす印で、銅がリサイクルされ、何度も再生されるものであることから、そのイメージが重ねあわされたからだという。古代エジプトにおいても、永久の生命への願いは強かったようだ。エジプトの王の名前の一部に、このアンクが付けられた。有名なツタンカーメン王も、その名前を分解すると、Tutankhamonとなっている。さて、は一般には、銅のシンボルマークというより、雌記号として一般的である。この起源がどうだったかも興味深い。古代エジプト神話にさかのぼる。地球の神と空の神を父母に持ち、農業と人の死を支配する神の妻で、豊穣と母性の女神アイシスのシンボルマークであったといふことからのようだ。日本銅センターが使用しているシンボルマークは、古代に永遠の命を与えられた銅という金属の偉大さを引き継ぎ、未来に銅の息吹きを伝えるロマンと重責を象徴しているようで、身の引き締まる思いである。

銅

第158号

目次

巻頭言……………2

カパーロマン……………2

「マークの故郷探訪」横井弘明……………3

銅の歴史物語⑩……………3

銅板屋根でみごとく改修……………3

「甦った女人高野・室生寺」……………4

銅と暮らしたロータリー⑩……………4

アイデア・アシッド・バイタリティ……………4

一住友金属鉱山（株）東予工場……………4

リレー随想……………6

銅と暮らす……………6

牛尾 篤……………6

ユザイ訪問……………8

ハイブリッドカーの高効率化に貢献……………8

銅製フルリアクター……………10

New Copper Structure……………10

銅が彩る癒しの空間……………10

建築内外装材・硫化処理銅板……………10

銅を学ぶ銅話の世界⑩……………12

メディカル最先端を支える銅配管……………12

東京女子医科大学付属第一病院（仮称）……………12

銅の需給動向……………13

銅センターニュース……………14

ニューストピックス……………14

表紙のごとば



女人高野と呼ばれる奈良県・室生寺。京の都からは遠く離れ、山深い所

にあつたため、昔ながらの姿を今に残している。境内にある建物が、このほど銅板屋根で美しく甦った。周囲の深い緑の中に溶け込んで、儼かに存在感を示している。